

公衆衛生事業功労者（財）日本公衆衛生協会会長表彰を受賞して

慈正会 松本クリニック
小柳 洋二



この度、公衆衛生事業功労者（財）日本公衆衛生協会会長表彰を受賞いたしました。

このような栄誉を賜ったことは、大変喜ばしく、推薦を頂いた小川会長をはじめ技師会役員の皆様に、心より感謝しております。

また平成24年4月27日に、受賞を祝う会を企画していただいた際には、実行委員長山中様はじめ、実行委員秩父郡市放射線技師皆様方にご苦勞いただき、秩父市農園ホテルにおいて多くの皆様にご出席を賜り、盛大にそして、楽しい時を共にすることができました。心より感謝しております。

なお授賞式は、先の震災の影響で平成23年度の表彰が平成24年3月13日に行われ、大手町サンケイプラザホールにおいて、3団体合同で多くの受賞者の方々と受賞の喜びを共有し、生涯の宝物に成りました。

今後も皆様の期待にお応えするべく、技術の研鑽^{けんさん}、地域技師会のために努力する所存です。

最後に成りますが、埼玉県診療放射線技師会の発展、そして技師会会員の皆様の益々ご活躍、ご健勝をご祈念申し上げて、お礼の言葉とさせていただきます。

寄付金の報告

渡辺 弘様より寄付をいただきました。

この度、平成24年春の叙勲にて瑞寶双光章を受章された渡辺弘様から、本会へ20万円の寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。

渡辺様は現在、医療法人群羊会 福音診療所、(株)さいたまメディカル クリエイトにて活躍されておりますが、医療法人へブロン会 大宮中央総合病院では放射線科科長・健診科科長を歴任された他、本会においても監事を務められるなど、病院外の診療放射線技師にも目を掛けていただきました。本当にありがとうございました。

平成25年『新春の集い』の開催報告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
 総務委員会 常務理事 芦葉 弘志

平成25年1月11日（金）19：00より、大宮サンパレス GLANZ「ストーリーア」にて、一年のスタートとなる、新春の集いを開催致しました。

会員45名、企業関係者46名、新入会員22名の合計113名の方々に参加していただきました。新人紹介では将来の抱負を語っていただき、仕事に対する熱意を感じました。

また平成23年度、24年度では、多数の諸先輩方が名誉ある受賞をされ、紹介ならびにご挨拶をいただきました。

本新春の集いにご参加いただいた各企業様をご紹介します（順不同）。

多数のご参加ありがとうございました。

会社名

富士フィルム RI ファーマ（株） 東芝メディカルシステムズ（株） 三田屋商事（株） 伏見製薬（株）
 エーザイ（株） 日本メジフィジックス（株） バイエル薬品（株）（株）カイゲン（株） 鯨屋
 （株）メディカルサービス T & K 第一三共（株） GEヘルスケア・ジャパン（株） 富士製薬工業（株）
 キヤノンライフケアソリューションズ（株） 富士フィルムメディカル（株） 堀井薬品工業（株）
 （株）フィリップスエレクトロニクスジャパン シーメンスジャパン（株） アミン（株） 三菱電気（株）
 （株）日立メディコ（株） 根本杏林堂



会長挨拶



乾杯



乾杯

第12回上部消化管検査認定講習会 開催報告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
学術理事 今出 克利

平成 24 年 12 月 9 日（日）と平成 25 年 1 月 20 日（日）の 2 日間にわたり、第 12 回上部消化管検査認定講習会がさいたま赤十字病院で開催された。

参加人数は 1 日目が 20 名、2 日目は埼玉消化管撮影研究会との合同開催で、スタッフを含め 35 名となった。今年度、認定試験を受験される方は 17 名で、多くの認定者が誕生することを期待している。

今回も馬場保昌先生（安房地域医療センター）と、大倉康男先生（杏林大学病院臨床病理部）をお招きし、上部消化管の X 線診断学および病理学を分かりやすく講義していただき、受講生の皆さんが真剣な眼差しで拝聴している姿が印象的であった。講習会のプログラムは下記の通り。

【プログラム】

① 平成 24 年 12 月 9 日（日）：上部消化管撮影 認定講習会

10：30～12：00 X 線透視装置の基礎：画質：性能評価

前田道利（日立メディコ（株））

12：00～13：00 ランチョンセミナー

製品紹介

柴田 太（日立メディコ（株））

基準撮影法の解説

今出克利（さいたま市民医療センター）

13：00～13：50 被ばく管理

工藤安幸（東松山市民病院）

14：00～14：30 造影剤のリスクマネジメント

（株）カイゲン

14：30～15：00 受診者管理

志田智樹（レインボークリニック）

15：10～16：10 上部消化管撮影技術：精密検査法

工藤 泰（早期胃がん検診協会）

16：20～17：20 読影およびレポート作成

大森正司（さいたま赤十字病院）

② 平成 25 年 1 月 20 日（日）：埼玉消化管撮影研究会と合同開催

9：30～10：20 上部消化管精密検査法

大森正司（さいたま赤十字病院）

10：30～12：00 上部消化管（読影法）

馬場保昌 先生（安房地域医療センター）

12：00～13：00 ランチョンセミナー

伏見製薬（株）

13：00～14：30 上部消化管（病理と画像）

大倉康男 先生（杏林大学病院 臨床病理部）

14：40～15：40 症例検討会

終わりに、講義を担当していただいた先生方およびランチョンセミナーにご協力いただいた日立メディコ（株）、（株）カイゲン、伏見製薬（株）、堀井薬品（株）、また会場準備や運営にお手伝いいただいた埼玉消化管撮影研究会の世話人の方々にこの場を借りて深くお礼申し上げます。

乳腺勉強会開催報告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
学術委員 尾形 智幸

平成 24 年 2 月 3 日（日）に乳腺勉強会がさいたま赤十字病院 5F 大講堂にて開催された。

内容は以下の通りである。

1. マンモグラフィの被ばく線量

総合病院国保旭病院

五十嵐 隆元 先生

2. MMG と US 現状と今後の課題

イーストメディカルクリニック

石栗 一男 先生

3. 症例検討会

参加者は 32 名であった。

「マンモグラフィの被ばく線量」に関しては、基本的な知識を身につけることを目的とした講義で、中でも拡大撮影における被ばく線量や IEC・JIS などメーカーが行うべき測定、IAEA・WHO など医療側が行うべき被ばく管理のことなどであった。

一番印象的であったのは「我々診療放射線技師が行うことは被ばく低減ではなく線量の最適化である」であった。

「MMG と US 現状と今後の課題」はフラットパネルディテクタ（以下 FPD）と CR の画質の比較、MMG と US の症例比較をイーストメディカルクリニック 石栗一男先生の講演では約 10,000 症例の膨大なデータを比較検討した結果から FPD と CR の画質の違いによる病変の見え方の違い、MMG と US では、腫瘍・ディストーションなど病変による描出能の差などモダリティの特性による違いについて話していただいた。メーカーの方も参加しており、今後の開発に当たりユーザーの意見がよく伝わる講義であった。

症例検討は、全員に参加していただくために、■と△の 2 種類のカードを参加者全員に渡し、二者択一（ウルトラクイズ方式）で行った。画像診断から考えられる患者の治療方針について検討した。

